







株式会社鳥越樹脂工業 卒業研究

「鳥越研究所」

大同大学 上岡研究室

D16014 遠藤 康裕

D16018 押川 光貴

D16073 山口 純平

愛知ブランド企業とは

愛知ブランド企業

ものづくり王国と言われる愛知県では、県内製造業の実力を広く国内外にアピールし、愛知のものづくりを世界的ブランドへと展開するため、県内の優れたものづくり企業を「愛知ブランド企業」として認定しております。



(愛知ブランドwebサイトより抜粋)







(株)鳥越樹脂工業について

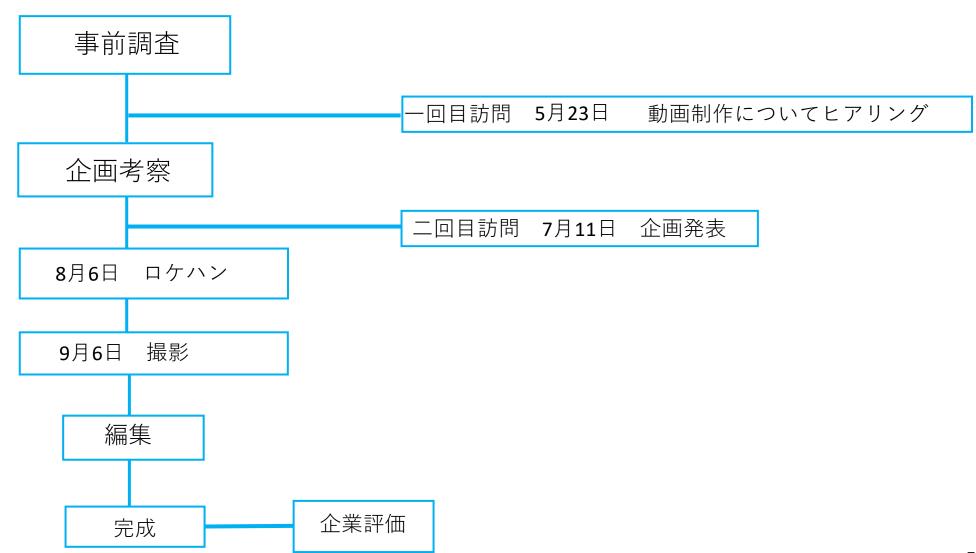
創業 昭和59年1月

- デザイン、設計から試作・量産・品質保証まで一貫した製品造りを行う
- 徹底した品質管理と生産管理を推進し、そのために必要な新しい情報と技術を導入する柔軟な体制
- お客様に意を尽くすことを第一に考える企業
- 2009年 「愛知ブランド企業」認定





研究制作過程



(株)鳥越樹脂工業からのご要望(一回目訪問)

【動画を通じてPRしたいこと】

- 1. 自社商品のPR
- 2. 美容健康の自社商品を取り扱う第二営業グループのPR
- 3. 会社のPR

【ターゲット】

- 開発会社
- 店舗のバイヤー
- デザイン会社 etc...

【動画の雰囲気の希望】

• コメディチックとはいかないが、真面目と差別化してほしい







課題に対する取り組み

- 4年生3人、3年生3人の計6人で各々企画を複数持ち寄る
- その内、形になりそうな企画をより良くしていく
- 今回は6人がそれぞれ1案ずつ形に出来たので、6案を企業へ提案
- 企業側で企画を1つ選んで頂き、撮影の準備へ入る

企画案A~C

A案:「鳥越樹脂工業実験所」

- お客様と二人三脚で仕事に取り組む姿勢に着目
- タイヤヒキ、ニニンサンキャク、オンブオマカセの不思議 な被検体3体の様子を研究者が見守るシュールな動画

B案:「お客様との二人三脚」

- 「お客様と協力しながら製品を作る」をアピールしたコンセプト
- 製品のデザインから完成までの工程を実際に二人三脚の状態で行う
- 後半に進むにつれ、関係者が増えていき三人四脚、四人五脚…と 続いていく

C案:「ラブレター」

- お客様の事を常に考える優しさがコンセプト
- (株)鳥越樹脂工業のお客様への思いをラブレターにして製品と共に 送るハートフルな動画







企画案D~F

D案:「鳥越樹脂の方がいいじゃない」

- (株)鳥越樹脂工業の女性目線な製品の良さをアピール
- キャラクター化された製品が、ずぼらな女性にきれいに なってもらうため、製品の良さをアピールしていく

「シャワーヘッド」 「シャワーヘッド」 「ボディタオル」

E案:「New Challenger」

- 自動車部品のメーカーでありながら、健康美容の製品に挑戦 した所に注目
- ボクサーの挑戦者にインタビューするドキュメントだが、 内容が(株)鳥越樹脂工業とダブルミーニングになっている



F案:「挑戦」

- 自社製品の取り組みに力を入れていく姿を、「壁にぶつかる」 「壁に挑み続ける」形で映す
- 若手社員が立ちはだかる壁に、ぼろぼろになりながら壁が壊れるまでぶつかっていく



企画発表(二回目訪問)

A案:「**鳥越樹脂工業実験所**」に決定

<企画全容>

- ・ シュールな実験
- 3体の被験体をモニタリングしている研究者2名
- 実験の様子を踏まえて二人三脚で挑む企業の強さを知ってもらう

1

1.被検体3体が使っている。
その場でひたすら足を動かしている。
動手「たからタイヤとキ、オングオマカセ、
ニニンサンキャクの三体が定っています。」

2.別室で被検体の様子をモニターで跳めている。

主任「今のところ問題はないか?」
助手「ええ。ん? いや、ちょっと待ってください」

3.2体の被検体をそれぞれアップのカット
疲れて動けない被検体
他事を辿める被検体
助手「大変だ、オンブオマカセが疲れて動けなくってしまった。
だめだ、タイヤヒキも走ることに抱きてしまったようです!!」

4.がっかりする研究者たち、1人が立ち去ろうとする
主任「くそっ!!どうすればいいのだ!!
もういい!!」

5.しかし、もう1人が何かに驚く

助手「!?
主任、ちょっと待ってください!!」

6.二人三脚の被検体だけは走っている様子をアップ

助手「二、ニンサンキャクです!
ニニンサンキャクが走っています!!」
生任「ニニンサンキャクが!ニニンサンキャクなのか!」

2

7.二人三脚ならうまく走ることが証明され喜ぶ研究者たち
助手「やったー!! ニニンサンキャクばんざい!!」
主任「ニニンサンキャクよくやった。」

8.喜んでいる2人を間に会社名とロゴをモニターに出す
「二人三脚で生み出し共に挑戦していく鳥越樹船工業」

撮影までの準備(ロケハン)

- **3**体の被験体を同時に撮影できるか見ている
- 本撮影ではわけて撮影することに決定
- モニターで見ている研究 者の様子
- 怪しい雰囲気を出す

- モニターのある部屋
- 出来るだけ暗く怪しい雰囲気が出るように演出

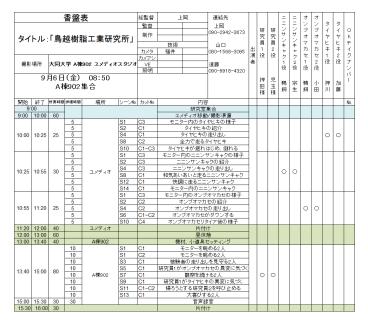


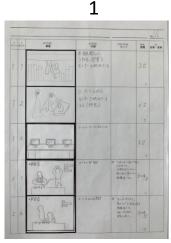


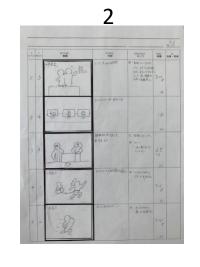


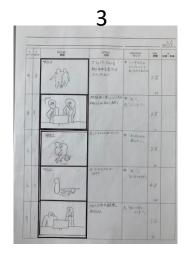
撮影までの準備(演出コンテ・香盤表)

【香盤表】



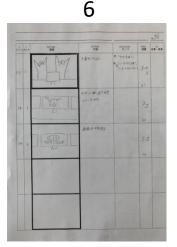












監視カメラ演出構成



画面全体に走査線・ノイズ・歪みを使用

動画構成-①













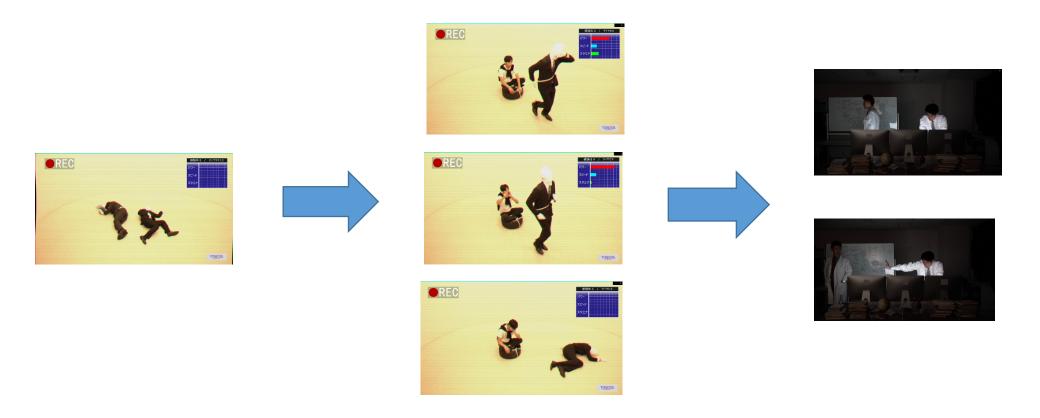






- 二人の研究員がモニターを眺めており、モニターの中には 3体の被検体が映し出され走り出した。
- 三体の被検体は企業とお客様の関係性を表すモデルであり、 ニニンサンキャクは(株)鳥越樹脂工業を表している。

動画構成-②



オンブオマカセ、タイヤヒキの二体の被験体が倒れてしまい、 上司が呆れて去ろうとするが部下が引き留める。

動画構成-③



ニニンサンキャクが走り続けており、実験は成功に終わる。

スタッフ

監督:遠藤(上岡教授)

企画:遠藤

編集:遠藤・押川・山口

制作:鵜飼・加藤・井上・中村・押川

カメラ:福井さん(Tender works所属)山口

カメラアシスタント:遠藤・井上

音声:小田 照明:林さん

キャスト

研究者上司:児玉さん(第二営業部)研究者部下:押田さん(第二営業部)

タイヤヒキ:押川・加藤

オンブオマカセ:遠藤・小田 ニニンサンキャク:遠藤・中村



まとめ・感想

今回、鳥越樹脂工業株式会社様の動画制作をさせて頂き、何度も壁にぶつかりましたが周りの方の援助もあり、何とか終えることができました。苦難することもございましたが、その分自分が成長できたと感じています。 (山口純平)

企画を大人数で出し合い、コンペ形式で企業に選んでいただくのが初めてでとてもいい経験でした。私の企画は選ばれませんでしたが、他の5人の企画と比べて自分にない発想や考え方を得ることができたと思います。 (押川光貴)

動画の企画・監督を務めさせて頂きました。撮影自体はスムーズでしたが、編集ではなかなか思うようにいきませんでした。結果として悩んで時間をかけた分編集の仕上がりなどは自身の中では納得できるものになりました。 (遠藤康裕)